

保育士養成校 在校生における 求職傾向調査報告書

公益社団法人全国私立保育園連盟 調査部

はじめに

全国私立保育園連盟調査部（以下、調査部）では、様々な手法で調査活動を行ってきました。今まで行ってきたのは、調査票を作成し回答していただく形式で、「定量調査」と呼ばれるものです。一般的なアンケート調査はすべて定量調査に分類されます。この形式は態度や行動を量的に把握することができ、一人ひとりの結果よりも、全体の傾向を知ることによって優れています。多くの人に質問し、数値として結果を比較分析できることから『仮説の検証』に使用されることが多くあります。

今回、私たち調査部が行ったのは、保育士養成校に通う学生を対象に、少人数でのディスカッションをもとに行う「グループインタビュー調査」です。このような形式で行う調査は、前記の「定量調査」に対し「定性調査」と呼ばれています。インタビュアーの質問に調査対象者が口頭で自由に答えることにより、心理や意識を探ることが中心となることから『仮説の構築』に用いられます。「定量調査」が全体の態度や行動を量的に把握するのに対し、「定性調査」は全体の傾向よりも一人ひとりの気持ちや意識を探ることに優れ、調査対象者一人ひとりに深く聞き、言葉で結果を分析します。

このように、調査手法によるそれぞれの特性を鑑み、今回の「保育士養成校在校生の求職動向調査」では各校に出向き、グループインタビューを行いました。本調査にご協力いただいた保育士養成校の先生方、学生の皆様に感謝申し上げます。

調査の概要

1 調査内容

本調査報告書に添付した「調査票」に基づく調査（11ページ参照）と、グループインタビュー調査（インタビュー調査内容は、報告書内に記載）

2 調査対象

下記の保育士養成校に通う1年生～3年生の502名に書面調査を実施。

その後、同養成校から各10名程度集まってもらい、「グループインタビュー調査」を実施。

- ・千葉明德短期大学（千葉県千葉市）
- ・関東学院大学（神奈川県横浜市）
- ・大垣女子短期大学（岐阜県大垣市）
- ・和歌山信愛女子短期大学（和歌山県和歌山市）
- ・高松短期大学（香川県高松市）
- ・尚絅大学短期大学部（熊本県菊陽町）

- ・学年ごとの人数 1年生 189名 2年生 280名 3年生 33名 計 502名
- ・男女別の人数 男性 16名 女性 486名 計 502名

3 調査方法

書面調査を実施後、前記各校10名程度に集まってもらい、少人数でのディスカッションをもとに行う「グループインタビュー調査」を実施した。

4 調査期間

平成29年11月～平成30年2月

調査実施の背景および目的

調査実施の背景には、以下のことがあります。

保育士、保育教諭不足が恒常化し、待機児童数が多い地域およびその周辺部では行政区分間、施設間での保育士争奪が激化しています。その結果、就労祝い金や高額な支度金、各種手当の増額など加熱が止まらない状況があります。また人材の枯渇により、人材紹介会社、人材派遣会社に頼らざるをえない求人状況、そのことによる人材確保コストの急騰など、施設運営にとって苦しい環境が続いています。保育士の社会的地位の向上や、専門性の認知度向上など、私たちにとって喜ばしい面もありますが、保育士争奪戦の様相を呈している現状を、このまま看過することはできないと考え、今回の調査を企画しました。

本調査に先立つプリ調査において、学生が就職先を選ぶ際に一番重視しているのは「職場での人間関係」「保育方針」「自宅からの通勤時間」、最後に「待遇」との回答がありました。しかし「人間関係」「待遇」のいずれも、その具体的な中身には大きな幅があります。これらのことを調査票への記入だけで調べることは困難であり、グループインタビュー形式で調査を行うことにより、課題の深掘りができるのではないかと考えました。

なお、インタビュー調査を補完する目的で、各校において書面による調査も実施しています。

インタビュー調査の進め方

調査部員が各校を訪問し、調査を実施しました。学校ごとのインタビュー深度のバラつきを抑えるため、インタビュアーは固定としました。各校 10 名程度の学生に集まっていただきましたが、学校行事等の関係により、参加学年の統一はできませんでした。なお、女子大学以外の学校に関しては男子学生がインタビューに複数名参加しています。

質問ごとに付箋紙へそれぞれの意見や思いを書き出し、模造紙に貼り、インタビューを行いました。記入された付箋紙から聞き取りを展開し、文字化されていない考えを拾うよう心掛けました。

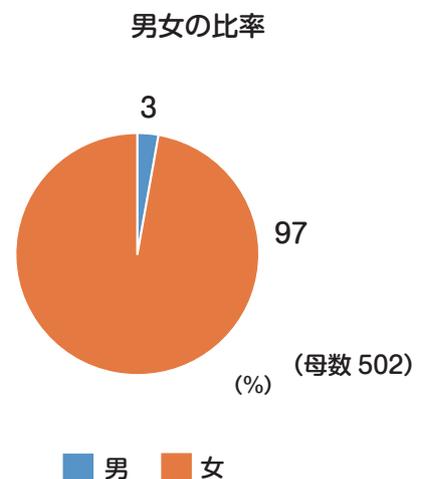
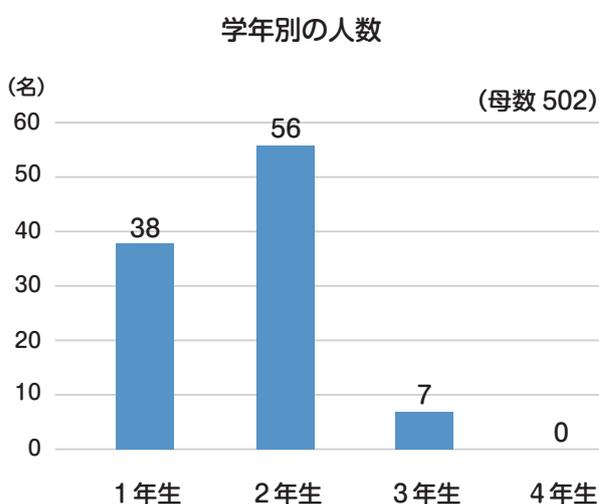
インタビューの実際

インタビューを行ったすべての学生に共通していることは、施設種別の違いはあれ、全員が保育職を目指している、もしくは保育職に内定しているという点です。そのため、学生たちがイメージしている社会人および就職先とは、子どものいる施設、そしてそこで働いている社会人となります。このことを踏まえてお読みいただければと思います。

インタビュー調査結果についての考察

Q1 社会人になるにあたって不安に感じていることは？

まず、学生たちに聞いたのが《社会人になるにあたって不安に感じていること》です。『お金の



やりくりができるのか』『寝坊せずに起きられるか』『社会保障制度や税金の仕組みがよくわからない』『持ち帰りの仕事が多いのか』『残業が多そう』『仕事とプライベートのバランス』などの意見が聞かれました。

中でも、どの学校の、どの学生からも聞かれたのが『職場の人間関係』です。学生たちにとって間違いなく一番の関心事なのだと思います。園長、主任保育士は怖いのか、先輩とうまく付き合えるか、同僚とはどうなのか…。インタビューを行った学生からは、次から次へと不安を訴える声が聞かれました。

後述する《就職先の園を選ぶ際に重視すること》においても、この項目に上位の回答があったことから、学生の関心度の高さが伺えます。これを逆に捉えるならば、この不安に寄り添い、サポートすることにより、学生への訴求力向上のみならず、早期退職者問題への対処とすることも可能ではないかと思います。いずれにしても、多くの学生が不安に感じている点であることに、間違いはなく、施設を運営する私たちに与えられた解決すべき課題ではないかと考えます。

Q2 求人票のどこを見て就職先を選ぶ？

調査時期が、就職活動の時期と重なっていたこともあり、各校には求人票が掲示されていました。そこで《就職先を決めるポイントは？》《求人票を見る時に気にしているところは？》と質問をしました。

地域によって大きく差が出た回答が『通勤時間』です。都市部にある学校では電車で1時間ぐらいまでは通勤可能、場合によっては実家を出て一人暮らしをするのも厭わないという答えが多く聞かれました。一方、地方の学校では『実家を出ての一人暮らしなんて考えられない』『実家から車で15分～30分が通勤時間の限界』『それ以上時間がかかる園は選ばない』『できれば15分



以内がベスト!』との声が圧倒的でした。

「家賃の補助などが充実している地域もあるので、そんなところで働いてみる気持ちはありますか?」と尋ねてみたのですが、『地元から離れたくない』『都会にはオシャレなお店がたくさんあるけど、私には地元のショッピングモールで十分』『お給料が高いのはなんとなく知っているけど、都市部に就職する気にはなれない』とのことでした。地方の学生たちの地元志向の強さを感じました。

ちなみに、都市部にある保育施設のイメージを聞いたところ、『保護者対応が難しそう』『園庭がない』そうです。

しかし、どの地域の学校からも得られた回答は、『休みはどれくらいあるのか』『給与の額、手当について』『残業はどれくらいあるのか』『採用試験の具体的な内容』などがありました。

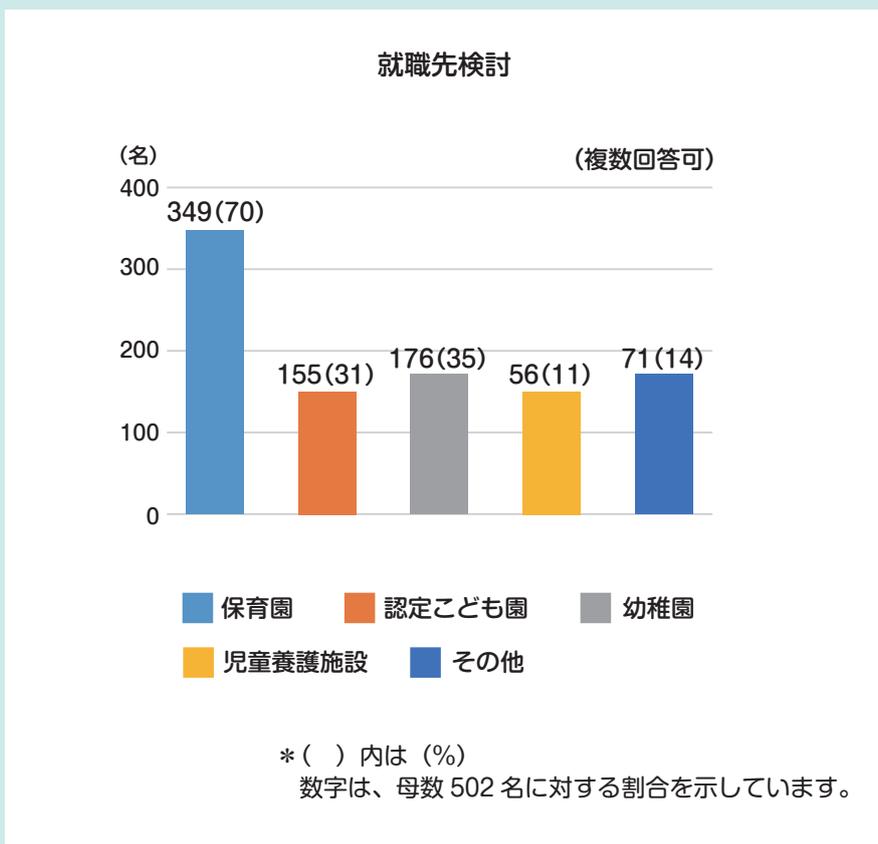
保育職の処遇については、昨今の報道等によって広く社会に伝えられたことにより、学生たちの関心の高さにつながっているのではないかと思います。『採用試験の内容』については、ピアノに苦手意識を持つ学生が多く、かなりプレッシャーとなっている様子が伺われました。

また、具体的な試験内容の記載がない求人票が散見され、そのような求人は敬遠される傾向にあるようです。

同様に、どの地域の学生からも聞かれたのは、『どんな保育をしているのか』『園の雰囲気はいいのか』『職員と子どもの人数割合』などでした。これらのことについては、施設を見学してもらうことなどで、ミスマッチを防ぐことが可能ではないかと思えます。保育実習を受け入れるなど、オフィシャルな関係性だけでなく、日頃から緩やかに養成校とつながることも必要ではないかと感じました。

興味深い回答は、『口コミサイトを参考にする』というものでした。これは、どの学校の学生からも聞かれました。

確かに、インターネットで検索をかけると大小様々な「保育施設口コミサイト」が見つかります。もともとは入園前の保護者が、施設を選ぶ際に使用するのが目的でしたが、現在では学生が就職する施設を選ぶ際にも参考にしているそうです。客観的で正しい情報が掲載されているとは限り



ませんが、現実としてサイトが存在し、学生がそのサイトを見て参考にしている以上、一度自園の名前を入力して正確な情報が掲載されているか確認してみるのもいいかもしれません。

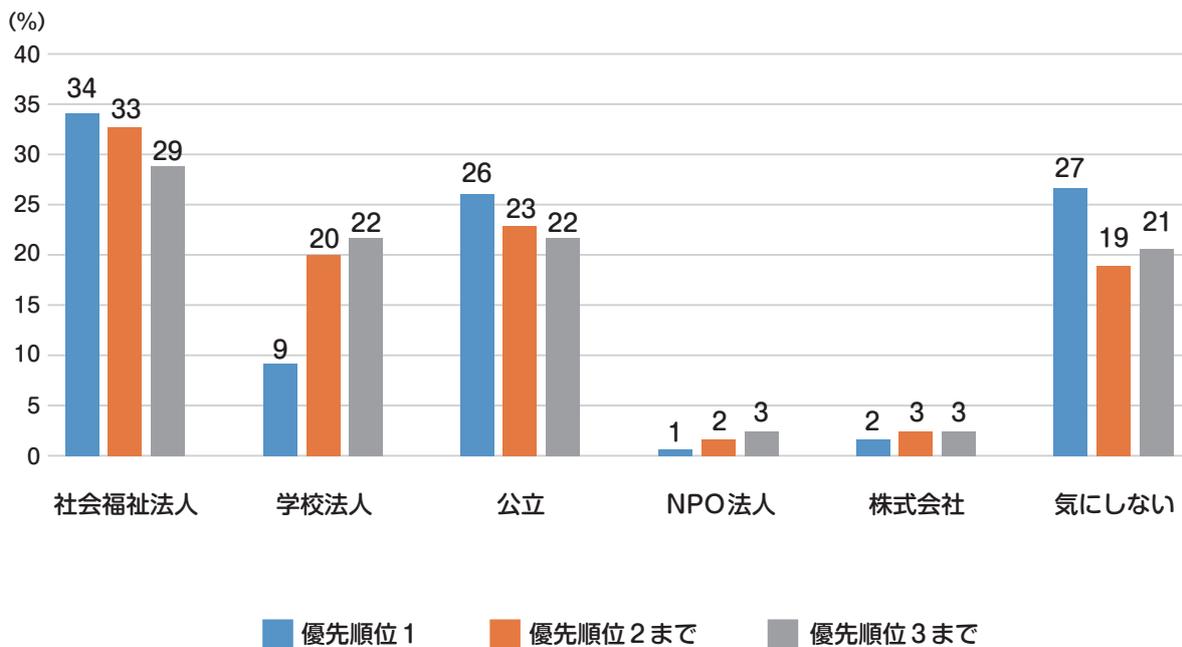
Q3 よい保育とは？

前項の《就職先を選ぶポイントは？》の問いに対して、学生から『よい保育をしている園に勤めたい』との回答が多く聞かれました。学生たちの胸の中には「よい保育」をしたいと願う、強い思いがあることに気づきました。

そこで、《みんなが考えるよい保育って何？》と投げかけてみました。この問いに対しては、『子どもの心に寄り添う』『職員どうしが連携がとれている』『なんでも話し合える園』『環境の設定がしっかりしている園』『子どもだけでなく、職員の笑顔も見える園』『子どもの主体性を大切にす保育』などの答えが得られました。

実際に働いたことがない若い（若い？）意見だといってしまうのは簡単ですが、学生は学生なりに、しっかりと保育について学び、考えているのだと思います。そのしっかりと考えている学生たちに、私たちはどのような保育で、どのような職場環境で応えていくのか、キャッチボールのボールは私たちに投げられているのではないのでしょうか。

就職先検討 運営主体



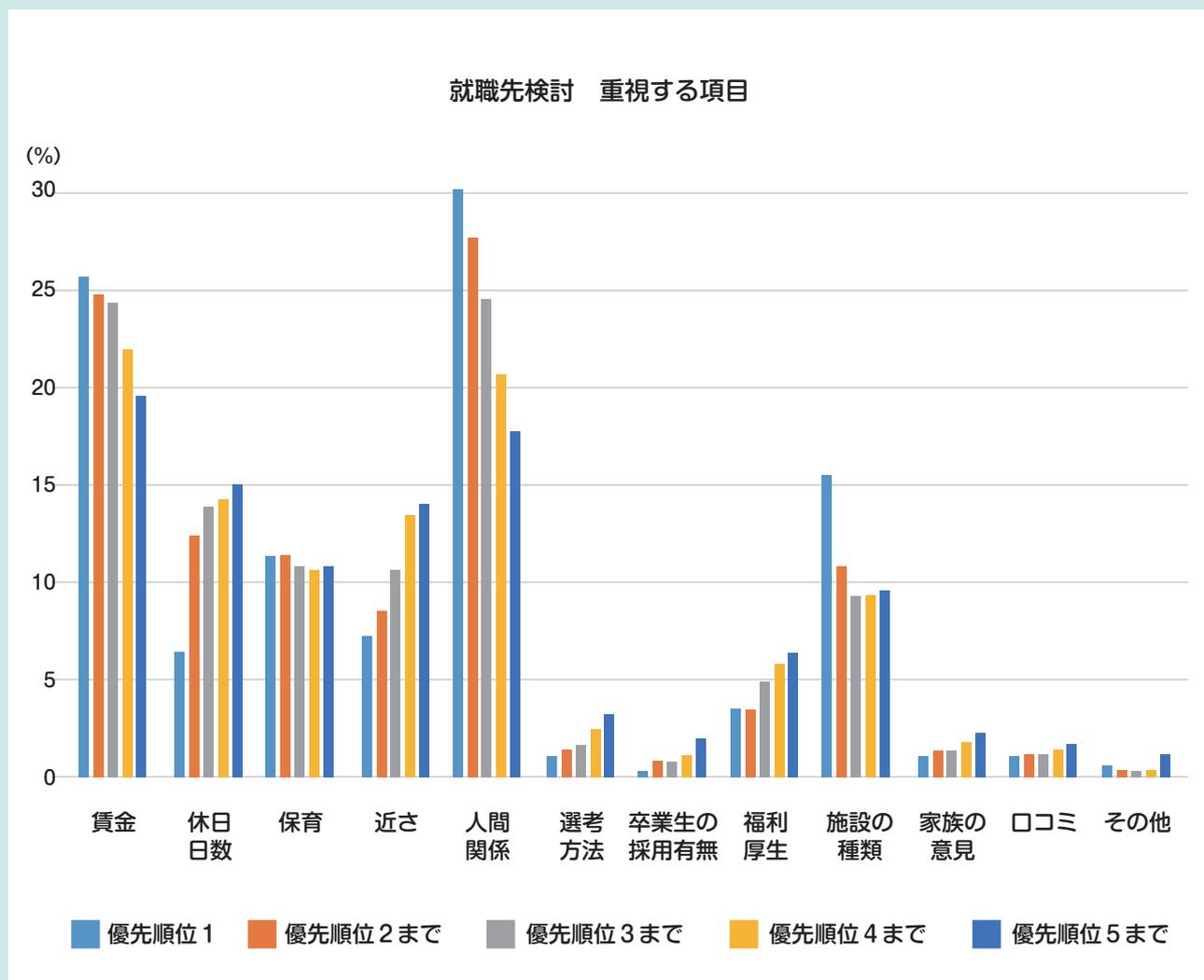
*各項目は四捨五入して%を算出しているため、各項目の合計が100%にならない場合があります。

Q4 選ばなかった施設は？

すべての学校ではありませんが、インタビューの流れから《保育実習で嫌な思いをした施設》《就職先として選ばなかった施設》について話を聞くことができました。耳の痛い話ではありますが、学生が実際に経験したことなので、自戒の意を込めて報告したいと思います。

保育実習はいうまでもなく、実際の現場を知る大切な学びです。しかしその実習によって、学生たちにマイナスのイメージを与えてしまっは本末転倒です。実習を経験したことによって『この施設では働かないと決めた』と話す学生たちがいました。学生たちが実習を行った施設では、『先生どうしの仲が悪い』『子どもの前で先生が先生を叱る』『先生たちが笑っていない』などの経験をしたそうです。

また、『学校の日誌以外に園独自の課題を義務づけられ、負担感が大きかった』『質問に答えてくれない』『実習生なのに朝早く出勤するようにいわれた』『自宅に持ち帰っての作業を渡された』などの声がありました。実習生をお客様扱いする必要はありませんが、将来一緒に仕事をするパートナーとして、温かく育てる気持ちが私たちには求められるのではないのでしょうか。



まず、調査にご協力いただいた各校の先生方に感謝を申し上げます。学校によっては定期試験の期間中であつたり、明日から実習開始というタイミングであつたりと、忙しい公務の中で時間を調整していただき、調査を実施することができました。重ねて感謝いたします。

今回の調査では、学生たちの生の声を聞くことができました。

本報告書の「はじめに」で述べたように、インタビュー調査は「仮説の構築」に使用される手法です。空前の人手不足にあえぐ保育界にとって、学生の求職動向はとても気になります。学生たちが望む施設とはどんな施設なのか、どのようなアピールをすれば学生たちの顔をこちらに向けることができるのか、気になり、知りたい内容ではありますが、学生の本音はペーパーの調査だけでは、伺い知ることができませんでした。学生たちのもとに出向き、膝を突き合わせたからこそ聞くことができた声だと思えます。

私たちは、どの地域の学生でも、給与の低い施設よりは高い施設を選ぶであろうと考えていました。確かに、都市部では一部その傾向が見られます。しかし地方の学校では、都市部で働きたいという声は聞かれませんでした。自分が生まれた地元を愛し、地元で根差して働きたい、そんな地に足の着いた生活を望む姿が伺われました。

『都市部に人を持っていかれる』とか『〇〇市はこんなに手当が出ている』などの話を耳にする機会が多くあります。社会人として生活を営んでいくうえで、給与の多い少ないは大切な事柄です。しかし、働き甲斐のある地元の園に就職したいと望んでいる学生は、私たちが想像している以上に存在しています。学生たちに対して、都市部と同じ方法論でアプローチするのではなく、自園の特色ある保育やワーク・ライフ・バランス等をポイントに訴求することは非常に有効ではないかと感じました。都市部にはない魅力を見つけ、発信していくことが肝要ではないでしょうか。

また、「学校で学んだ『良質な保育』を実践したい」と願う学生の姿がありました。「実習で嫌な思いをしたことはあったけれど、でも、保育士として仕事をしたい」と笑顔で話す学生がいました。「こんなにやりがいを感じる仕事は他にないと思う」と、誇らしげに語る学生がいました。「将来自分が働くであろう業界の環境をよくしようと考えてくれる大人がいるんだ」と、喜んでくれている学生がいました。「大変な仕事かもしれないけど、保育士は子どもの頃からの夢だから」と、話してくれる学生がいました。

昨今の報道等により、「キツイ仕事」と認識（正しい認識ではありませんが）されるようになった保育職を、それでもあえて選んだ学生たちです。そして学生たちは、「よい保育」を求めています。

そんな学生たちに、私たちはどのような保育環境、どのような職場環境で応えるのか、チャレン

ジが始まっているのだと思います。

夢だけで施設の運営はできません。現実として超えなければいけない壁は、私たちの前にたくさんあります。しかし、夢のないところに未来はあるでしょうか。夢を持ってない、夢を語れない仕事に喜びがあるでしょうか。

希望を胸に日々学び、保育の場で働くことを望んでいる学生の期待に応えるため、私たちが果たすべき役目がたくさんあることに気づかされた調査でした。



平成 30 年〇月〇日

〇〇大学
〇〇 様

(公社) 全国私立保育園連盟
会長 小林 公正
調査部長 丸山 純

〔保育士 養成校在校生における求職傾向調査〕実施のおお願い

この度は、標記調査実施にご承諾いただき、ありがとうございます。
お引き受けいただきながら、その後のご連絡がこのように遅くなり、たいへん
申し訳ありません。恐縮ですが、あらためて下記の要領にて調査をお願いしたく
お願ひ申し上げます。
ご多忙な先生の貴重なお時間を拝借することになりますが、ご協力のほど、よろ
しくお願ひ申し上げます。

記

◆実施日時及び場所

貴大学部内において平成 30 年〇月〇日に実施
1 時間程を予定しております。

◆調査目的

- ・保育施設へ就職を希望する学生が、就職先を選ぶ際に重視している点を調査
します。
- ・調査結果を全国私立保育園連盟会員園へ周知することにより、学生への適正
な訴求力の向上を目指します。

◆調査方法

- ・来春卒業予定の学生 10 名程度を対象にインタビュー形式で調査を実施。
- ・調査については当連盟調査部員 2 名が行う。なお記録には IC レコーダーを
使用する予定です。
- ・別紙、書面での調査にもご協力いただけると幸いです。

◆その他

- ・調査当日に調査を行っている様子の写真撮影が可能でしたら撮影させてい
だきたく願います。
- ・調査結果は当連盟の機関誌等で報告を行う予定です。その際には学生の個人
名等、個人情報伏せて報告を行います。
- ・調査の実施に際しては当連盟規程に沿った謝金をお支払いいたします。

◆連絡先 (公社) 全国私立保育園連盟 事務局

TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879

平成 29 年 10 月

短期大学、大学学生の皆さま

(公社)全国私立保育園連盟調査部

調査ご協力のお願い

日々の学び、そして学校行事に忙しくお過ごしのことと思います。

(公社)全国私立保育園連盟調査部(以下、全私保連調査部)では、各校で保育を学ぶ学生の皆さまが、就職先を選ぶ際にどのようなことを重視しているのかを調査することとなりました。今回の調査を行うことにより、学生の皆さんが知りたい内容が記載された求人票の記載を行い、よりスムーズな求職活動が行われるようにしたいと思います。

ご協力いただいた調査結果については、全私保連調査部が集計し、当連盟機関誌等で報告を行います。

なお、今回の調査にご協力いただいた皆さまの個人情報(全私保連調査部が責任を持って管理し適正に扱います)。

* この調査に関する連絡先

(公社)全国私立保育園連盟 事務局

TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879

保育士養成校在校生における求職傾向調査

下記の設問に記入又は○でお答えください。

Q1. あなたの学年と性別を教えてください。

(_____ 年 女性 ・ 男性)

Q2. 就職先に検討している施設区分に○を付けてください。複数回答可です。

(保育園 ・ 認定こども園 ・ 幼稚園 ・ 児童養護施設 ・ その他)

Q3. 就職先を検討する際に重視する運営主体を下記から選び、優先順位順に番号をお答えください。

- ① 社会福祉法人 ② 学校法人 ③ 市立など公立 ④ NPO 法人
- ⑤ 株式会社 ⑥ 気にしない

優先順位	運営主体番号
1	
2	
3	

Q4. 就職先を検討する際に重視する項目を下記から選び、優先順位順にお答えください。

- ① 賃金 ② 年間休日数 ③ 保育方法及び保育理念 ④ 自宅からの近さ
- ⑤ 職場の人間関係 ⑥ 選考方法 ⑦ 卒業生採用の有無 ⑧ 福利厚生
- ⑨ 施設の種類(保育園、幼稚園等) ⑩ 家族の意見 ⑪ 口コミ ⑫ その他

優先順位	検討項目番号
1	
2	
3	
4	
5	

* 調査は以上です。ご協力ありがとうございました。ご記入いただいた調査票は貴校の先生にお渡しください。

調査票は裏面に続きます。 

*本報告書に関するご意見、ご感想、お問合せ等は、
下記の全私保連調査部へお寄せくださいませ。



保育士養成校在校生における 求職傾向調査報告書

2018年9月1日発行

編者 公益社団法人 全国私立保育園連盟 調査部
調査部長 丸山 純 (千葉県・第二勝田保育園園長)
調査副部長 鷹橋賢淳 (岐阜県・市橋保育園園長)
調査部員 齊藤 勝 (山形県・子供の城保育園園長)
調査部員 松本 幸 (香川県・土庄保育園園長)
調査部員 小川幸伸 (和歌山県・のざき保育園副園長)
調査部員 元村健正 (熊本県・若草保育園園長)

発行所 公益社団法人 全国私立保育園連盟

〒111-0051

東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館

TEL 03-3865-3880 FAX 03-3865-3879

URL : <http://www.zenshihoren.or.jp/>

E-mail : ans@zenshihoren.or.jp

デザイン 有限会社タモン

印刷・製本 株式会社光陽メディア

© Kouekishadanhoujin Zenkokushiritsuhoikuenrenmei 2018 Printed in Japan

落丁・乱丁本は本会事務局へご連絡ください。

送料本会負担にてお取り替えいたします。